

①日本国特許庁 (JP) ②実用新案出願公告
③実用新案公報 (Y2) 平3-9692

④Int.Cl.¹ 譲別記号 広内整理番号 ⑤⑥公告 平成3年(1991)3月11日
A 61 F 6/04 7603-4C A 61 F 5/43

(全3頁)

⑦考案の名称 コンドーム

⑧実願 昭62-44349 ⑨公開 昭63-151121
⑩出願 昭62(1987)3月25日 ⑪昭63(1988)10月4日

⑫考案者 幸田 貞江 徳島県徳島市寺島本町西1丁目10番地
⑬出願人 幸田 貞江 徳島県徳島市寺島本町西1丁目10番地
⑭代理人 弁理士 富田 光風
審査官 石井 錠久

出願人において、実施許諾の用意がある。

⑮参考文献 実開 昭54-130795 (JP, U) 実開 昭60-102011 (JP, U)

1

2

⑯実用新案登録請求の範囲

薄肉の筒状部の開口端につば状部を設けたコンドームにおいて、筒状部の中央部付近の外周もしくは内周に筒状部の前半と後半とを重ね合せて巻取るためのリング状部材を、筒状部材の径に変化が生じない状態で設けたことを特徴とするコンドーム。

考案の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本考案はコンドームの改良に関するものである。本考案のコンドームは例えば性行為感染症の予防と避妊効果の向上のために用いて特に有効である。

〔従来技術〕

従来のコンドームは、射精後の陰茎の萎縮によつて陰茎とコンドームとの間に隙間ができ、陰茎の根元と女性外陰部とが接触し、性行為感染症を起こす原因となることがあり、また射精後の陰茎の萎縮によつてコンドームが体内に脱落することがあり、それによつて男女性器が直接接触し、性行為感染症を予防することも避妊の目的も達成できず、コンドーム本来の使用目的が損なわれてしまうという不都合があつた。そこで、従来の筒状をしたコンドームの開口端につば状部を設け、男女器間の直接接触と両性器分泌物の分離とを確実にし、性行為感染症の予防の達成を図ると共

に、使用後の體内への脱落を防止することを目的としたつば付きのコンドームが提案されている。例えば実開昭58-133319号のコンドームがそれである。

5 〔従来技術の問題点〕

ところで、従来のコンドームは、使用前においてその開口端の縁部を芯にして先端側に向かつて巻き込んだ状態に収められており、使用時に男性性器への装着を容易にすると共に内部に余分な空

10 気が溜らないようにされているのが通例である。ところが、つば付きコンドームはつば状部が邪魔になり、従来のコンドームのような状態に収めておくことができないので、筒状部はそのままあるいは折りたたんだ状態にしか収めておくことができない。こうなると、男性性器への装着が困難になると共に、コンドーム内部先端に溜った空気が抜けず、性感を大きく阻害するばかりか、使用中に破損するおそれがあり、コンドーム使用の本来の目的が達成できることになるので、現実には使いものにならないという問題点があつた。

15 そして、このつば付きのコンドームは最近問題になつてゐるエイズ等性行為感染症の予防に役立つものとして期待され得るものとの、使いものにならないものでは実効を期し難い。

20 25 本考案はこのような事情を背景としてなされたものであり、本考案の目的とするところは、男性

(2)

実公 平 3-9092

3

性器への装着容易な状態に収めておくことができるようになり、実際に使用することができるつば付きのコンドームを提供することにある。

〔従来技術の問題点を解決するための手段〕

このような問題点を解決するためになされた本考案の要旨とするところは、

薄肉の筒状部の開口端につば状部を設けたコンドームにおいて、筒状部の中央部付近の外周もしくは内周に筒状部の前半と後半とを重ね合わせて巻取るためのリング状部材を、筒状部材の径に変化が生じない状態で設けたことを特徴とするコンドームを構成したことにある。

〔実施例〕

以下本考案の実施例を図面に基づいて詳細に説明する。

第1図において10はコンドームであり、従来のコンドームと同様な薄肉の筒状部12の開口端には、隙間を生じないようにつば状部14が一体に形成され、つば状部14と筒状部12の接ぎ目およびつば状部14の外周部には、それぞれリング状の縁取り部材18, 20が設けられている。さらに、筒状部12の中央部付近にはその径が変化しない状態でリング状部材18が取付けられている。なお、リング状部材18は図示の関係上強張されているが、後述する巻き込みが可能な範囲で縮くしてもよい。またリング状部材18は巻き込みが可能な軟質のゴム、合成樹脂などを使用する。

このように構成されたコンドーム10は第2図イ～ハに示すようにして、使用する前に収めておくことが可能となる。すなわち、第2図イのように筒状部12を伸ばした状態でリング状部材18を矢印22の方向に回転させると、筒状部12はリング状部材18から開口端寄りの部分がリング状部材18の外側に、リング状部材18から先端寄りの部分が内側に巻き込まれ、第2図ロに示す状態となる。すなわち、リング状部材18を芯にして筒状部材12の前半と後半とが重ね合さつた状態で巻取られたことになる。巻き込みの状態を第3図に模式的に示す。製造時には、巻き込みに当たって、筒状部12の内側に棒状の巻き込み補

4

助部材を挿入しておくことにより、作業が容易となる。さらに、巻き込みを続けると、第2図ハに示すように従来のコンドームと同様な状態に収めることができる。

5 従つて、従来のコンドーム同様に男性性器への装着が容易で、かつ内部に空気が入ることもない。使用中に破損したり、性感を損なうこともなく、従来のコンドーム同様な使用が可能となる。その結果、つば状部14を設けたことによる

10 利点が生かされ、性行為感染症の予防と膣内への脱落防止の実効を図ることができる。

前記実施例において、コンドームを収めるに当たつて、リング状部材18の回転方向を第2図イ、ロ、第3図に示す矢印22と逆にすることも

15 可能である。また、リング状部材18は筒状部12の内周側に取付けてよい。さらに、つば状部14は、性行為感染症の予防と膣内への脱落の防止とを図り得る範囲において、大きさ、形状、厚さ等種々に変えてよい。さらにまた、縁取り部

20 材18, 20も同様な範囲内で設けることを中止してもよい。

以上本考案の実施例について説明したが、本考案はこのような実施例に何等限定されるものではなく、本考案の要旨を逸脱しない範囲において種々なる態様で実施し得ることは勿論である。

〔考案の効果〕

以上詳記したように本考案によれば、筒状部の中央部付近に、リング状部材を設けているので、これを芯として巻き込むことができ、男性性器への装着が容易な状態に収めることができる。その結果、つば付きのコンドームとしての性行為感染症の予防効果と膣内への脱落防止による避妊効果の向上を期待できる。

図面の簡単な説明

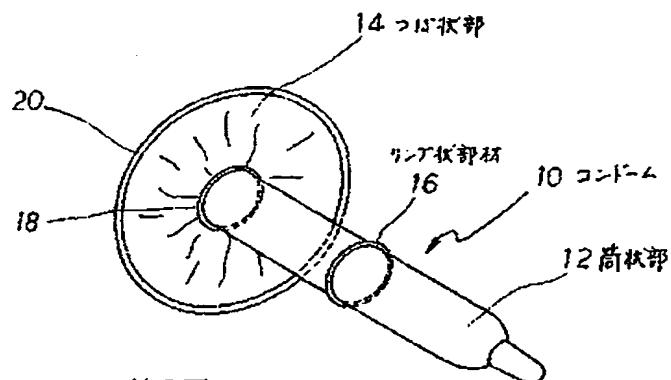
35 第1図は本考案の一実施例を示す斜視図、第2図イ～ハは、同実施例の収め方を示す断面説明図、第3図は第2図ロのA部を模式的に拡大して示す説明図である。

10 ……コンドーム、12……筒状部、14…
40 ……つば状部、18………リング状部材。

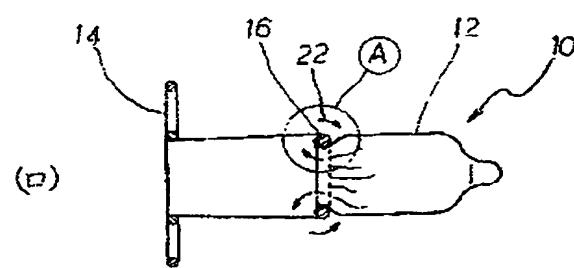
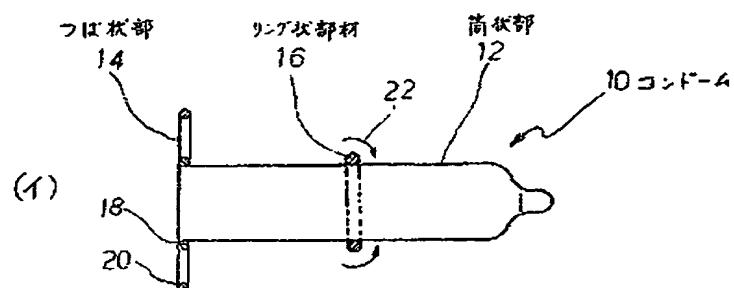
(3)

実公 平 3-9692

第1図



第2図



第3図

